

講義名	19-観光コミュニケーションB/15-観光英語B			
担当教員	中川 典子			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

グローバル社会の進展に伴い、海外へ旅行する日本人、そして、海外から来日する外国人観光客の数は増加の一途をたどっている。また、日本における観光産業の充実を図るための諸施策も大きな課題となっている。特に、旅行・観光・ホテル・レストランサービス等の業種にあつては、英語の運用能力だけでなく、業種専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロの養成が急務であり、このような能力をもつ人材への高い需要がある。本コースでは、ツーリズムやホスピタリティ・ビジネスなどに興味のある受講生が明確な目的をもち、ツーリズムのプロとして必要な英語を楽しみながら学べる授業を展開する。「英語を学ぶ」というよりも、「英語で“観光業務を学ぶ”」という姿勢で取り組んで欲しい。上記は「観光ビジネスのスキルを備え、高い人脈力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに貢献するものである。

到達目標

(1)「旅行業」「航空業」「ホテル業」といった観光産業に必要な英語表現を習得できるようになる。
(2)観光コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング・リーディングのスキルに加入して、観光産業の基本的な知識を得られるようになる。
(3)クラスメイトとのロールプレイ演習により、実践的な英語コミュニケーション力を養えるようになる。
(4)演習を通じて、文化の多様性を理解し、受容できる異文化コミュニケーション力を養えるようになる。
上記の到達目標は、海外の顧客満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を培い、観光英語検定の受験に必要な知識が得ることにより、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人脈力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーの達成に役立つ。

提出課題

観光英語検定2級に関する単語演習問題、テキストの内容に基づいて講師が作成したワークシート、等の課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題の解答を提示する際、受講生にとって特に難解であると思われる英文法や英語表現について詳細に解説する。

評価の基準

(1)課題 (30%)
(2)クイズ (30%)
(3)最終試験 (30%)
(4)授業態度と参加 (出席とは異なる) (10%)

履修にあたっての注意・一言他

(1)コースの評価は、上記の評価基準の(1)(2)(3)(4)のすべてを完了した人に対して与えられます。1つでも参加しない項目がある場合、単位を取得できません。
(2)交通機関の遅延等、正当な理由なく、15分以上遅刻した場合は欠席となります。3回遅刻で1回欠席、5回以上欠席すると最終試験を受けられず、単位を取得できないので注意してください。
*詳細は、第1回目の授業で知らせます。

教科書				
.English for Tourism Professionals..	Reiko Fujita	National Geographic Learning	¥2,400	978-4-86312-356-4

プリント資料及び参考文献

観光英語検定の課題資料、テキストの内容を理解するための補助教材としてワークシートを配布する。

授業計画

回 授業計画
1. Course Guidance, Unit 8 Working at the Boarding Gate (1)
2. Unit 8 Working at the Boarding Gate (2)
3. Unit 9 Offering In-flight Services (1)
4. Unit 9 Offering In-flight Services (2)
5. Unit 10 Giving CIQ Information (1)
6. Unit 10 Giving CIQ Information (2)
7. Unit 11 Taking a Room Reservation (1)
8. Unit 11 Taking a Room Reservation (2)
9. Unit 12 Welcoming Guests (1)
10. Unit 12 Welcoming Guests (2)
11. Unit 13 Helping Guests (1)
12. Unit 13 Helping Guests (2)
13. Unit 14 Dealing with Complaints (1)
14. Unit 14 Dealing with Complaints (2)
15. Unit 15 Sending Guests Off (1)
*授業内容はその日の進捗具合により、翌週に持ち越される場合がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：観光英語検定の課題やテキストの補助教材として講師が作成したワークシート、教科書の演習問題に取り組み、(2時間)
復習：その日の学習内容の復習(テキスト内容のリズニング、会話文やリーディングセクションの音読を含む)およびクイズで間違えた箇所の確認(2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本コースは以下の点において、「観光ビジネスのスキルを備え、高い人脈力を有する学生を育てる」という観光学科のディプロマポリシーに沿うものである。
(1) 海外の顧客満足を得るために必要なホスピタリティと英語によるコミュニケーション力を培うことができる。また、授業では観光英語検定の受験に必要な知識が得られるため、観光業界に就職した際、それを活かすことができる。
(2) ホテルやブライダル関連企業で就業する際に必要な英語コミュニケーション能力だけでなく、特にホテル業界で仕事を遂行するうえで必須の知識も習得できるため、「ホテル業」といった観光関連産業や地域の観光団体に就職した際に実践することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講師やクラスメイトとのペアワークやグループワークを通じて、英語コミュニケーション力の向上を目指す。また、授業の最後に質疑応答の時間を設ける。

実務経験の有無及び活用

備考

授業に関する連絡事項はすべて「講義連絡」を通じて行いますので、必ず確認してください。第1回目の授業までに必ず、指定教科書を購入してください。教科書不購入により生じる学習上の不都合はすべて自己責任です。教科書を購入せずに授業に出席した場合は、単位を取得できません。常に真摯な態度で受講してください。第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えしますので、必ず出席してください。なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、シラバスの修正が発生する可能性があります。